

真宗学会

◇研究旅行

—北陸の親鸞聖人と

蓮如上人の旧跡をたずねて—

十月一日・二日

毫撰寺—誠照寺—車の道場—超勝寺

吉崎別院—願慶寺—本覚寺。

参加者 細川助授、白井講師、本多、松井

助手、学生二十名、短期仏教科三十名

◇「親鸞教学」第十一号発刊

十一月十日

◇真宗学会大会

十一月十五日 於 二〇一教室

講演

「歎異抄における非情の側面」

本学教授 稲葉 秀賢氏

「教理と実践」

龍大教授 藤原 凌雪氏

出席者 広瀬学会会長、幡谷、伊東助教授、

白井、寺川講師、本多、松井助手ほか学

生六十八名。

◇修士論文中間発表

十一月三十日

於 七番教室

研究発表

論註における二種法身について

笠原 秀恵

四十八願の研究

久保瀬正雄

論註の八番問答について

木屋 俊樹

五念門の研究

篠原 正韶

出席者 広瀬学会会長、稲葉、

松原教授、

細川、伊東助教授、本多、松井助手は

か学生四十五名。

◇卒業論文中間発表

十二月七日

於 視聴覚教室

研究発表

真宗に於ける宿業の問題

泉 恵機

教の真実性について

小田 治夫

法蔵菩薩

山本 真美

第十七願について

照井 詠子

末法灯明記の研究

白髭 英春

真仏弟子

土方 玄城

出席者 広瀬学会会長、松原、藤原教授、

細川、幡谷、伊東助教授、白井、寺川

講師、本多、松井助手ほか学生八十名。

仏教学会

◇研究発表及び枢部助教授学位祝賀、白土

講師帰朝歓迎会

十月三十一日

十四番教室

「漢訳維摩經の読み方二、三」

出席者 横超主任教授以下先生方及び学

生多数。

仏教学会

◇三回生研究旅行

十月一・二日 伊賀・伊勢方面・鍵屋

辻・崇広館・上野城・芭蕉生家・高田専

修寺・本居宣長生家・本居神社・朝熊山

金剛証寺・伊勢神宮。

指導 藤島教授、大桑嘱託。

参加学生十一名。

◇史蹟踏査

十月二十九日 野洲・堅田方面…東門

院・善立寺・赤野井別院・矢鳥観音堂・

真光寺・本福寺。

指導 北西助教授、名畑助手、大桑嘱託

参加学生十一名。

◇史蹟踏査

十一月二十六日 笠置・柳生方面…笠置寺・芳徳寺・南明寺・円成寺。
指導 藤島教授、名畑助手、大桑囑託。
参加学生十名。

◇大会

十二月九日 午後一時より

於 一号館視聴覚教室
テーマ及び発表者
寺檀関係の成立過程 大桑斎囑託
顯証寺蓮淳の立場 北西弘助教授

国史学会

◇洛西方面史蹟踏査

十月二十九日

見学史蹟 長法寺、光明寺、十輪寺、善峰寺、三鈷寺。

指導 柏原教授。参加 佐々木助手、沼

囑託、学生十四名。

◇卒業論文中間発表会

十一月二十九日午後三時より

於 学生会議室

出席 五来教授 柏原教授 佐々木助手

沼囑託、学生五十名。

◇昭和四十二年度国史学会大会

十二月三日 午前十時より

於 図書館講堂

研究発表

一、キリシタンの教義について

頼尊 聖氏

一、即身仏とその信仰

海野 栄久氏

一、八幡瓦について

早崎 得雄氏

一、我が国古代に於ける瓦の製法

——特に沖繩に残る明代の瓦製法との関係を中心として——(八ミリ使用)

公開講演

一、本願の橋

本学教授 五来 重氏

一、障屏画について

——スライド使用——
京都国立博物館 武田 恒夫氏

懇親会 午後四時三十分 於 本学食堂

出席 柏原教授、堅田講師、佐々木助手

沼囑託、山香茂氏、鈴木昭英氏、吉田清

氏、学生五十名。

◇奈良方面史蹟踏査

十二月十七日

見学 興福寺、東大寺戒壇院、頭塔、元

興寺極楽坊、春日若宮御祭。

指導 五来教授、柏原教授、堅田講師。

参加 佐々木助手、沼囑託、学生十五名

東洋史学会

東洋仏教史学会

中国文学会

◇補導懇談会

十月十一日

於 三〇五教室

出席 野上教授、藤島助手

四回生十一名。
卒論作成についての指導・懇談を行なう

◇卒論中間発表会

十一月十一日

於 二〇七教室

出席 野上教授、藤島助手、河内、学生

二十四名。
発表者十二名。

東洋学会

◇第五回大会

十一月二日

研究発表

元末帝師の事績

注維摩にみる僧筆と等道生の思想

西尾 賢隆氏
古田 和弘氏

於 図書館講堂

劉考標の人と思想 若槻 俊秀氏

許邁伝小考 横田 恵氏

法藏の「光明」の解釈について

鍵主 良敬氏

特別講演

唐後期の居士仏教

—斐休の場合について—

東京教育大名譽教授 山崎 宏博士
立正大学 教授

大会終了後、学内食堂にて懇親会を行い
先輩二十六名の参加も得て総員七十名
で、終始なごやかに歓談、盛会裡に散会

大谷大学史学会

◇秋季研究発表会

十二月二日(土)午後一時

於 視聴覚教室

テーマ及び発表者

一、大神神社における鎮花祭について
明永恭典(修2)

一、唐代仏教史上における安史の乱の意
義について 井上俊昭(修2)

一、日本古代における祈雨と仏教
佐々木令信(修2)

一、第七代ダイライラマとその著作
柳川隆道(修2)

一、奥越地方における真宗教団の展開
坪内 晉(修2)

一、石動山伏の勅進 日和祐樹(修2)

一、六朝時代王氏一族と仏教
望月節子(博1)

望月節子(博1)

研究発表会終了後、二〇二番教室にて茶
話会を行なう。

△出席者▽ 五来、藤島、野上、稲葉、柏
原各教授、北西助教、ほか各研究室員
及び学生一〇〇名余り。

国文学会

◇秋季史蹟踏査

十月十・十一日に大学院・文学部三・
四回・短期学部一回B組が長谷寺、檀原
神宮、久米寺、吉野、薬師寺などを見学
した。参加者、多屋教授、片岡講師、学
生二十五名。

十一月九・十日には短期国文科二回生
が吉野・高野方面(指導渡辺講師)、十
八日には一回生A組が三輪・長谷方面
(指導山本教授)を見学した。

◇卒業論文中間発表会

十月三十・三十一日 於 視聴覚教室
論文提出予定者十八名が各自のテーマに

ついて発表し、その後、諸先生より色々
と御指示があった。出席者 多屋教授、

山本教授、仲野講師、渡辺講師、片岡講
師ほか学生五十名。

十一月一日、山本教授は文学博士の学位
を受領せられた。

◇十一月一日、山本教授は文学博士の学位
を受領せられた。

昭和四十二年国文学会大会

十二月九日(土)午後一時

研究発表

靈異記にみる他界観 入部 正純

今昔物語に現われた弥勒信仰 石橋 義秀

いとをかしげなる女 荒川 照夫

存在のナリについて 水谷 憲司

講演 平家諸本に現われた源空 渡辺 貞磨

御物本更級日記の書写について 水田 紀久

大会終了後、山本教授の学位取得祝賀会
を鳳舞で行なった。

哲学会

◇『哲学論集』第十四号(特輯号——現代
における人間の問題)十二月一日発行
内容目次

卷頭言……………西谷啓治

妙好人における存在の問題……………坂本 弘

ニヒリズムの問題……………曉島哲夫

現代社会における人間……………高橋憲昭

——フロム・リースマン・コーン

ハウザーの所論を中心にして——

「ルソオとその現代」の意義……………太田祐周

シェラーの協和的人間像につ

いて……………寺崎峻輔

シモーヌ・ヴェイユの人間観……………井上正名

現代における「狂信」の宗教学

的問題……………古賀武麿

——大衆の意識と宗教的関与——

哲学倫理学会

◇例会

十一月十一日 於 三〇七番教室

「カントの社会観について」

発表者 訓覇 嘩雄講師

出席者 金松、立花、世良、寺崎、箕浦

の先生方外、学生十一名。

◇公開講演会

十一月二十五日 於 図書館会議室

「価値について」

京都大学助教授 上山 春平

来聴者 金松、立花、世良、寺崎、訓覇

箕浦の諸先生方並びに哲学科内外の学

生約四十名。質問討論も活発に行なわ

れた。

宗 教 学 会

◇例会（修士論文中間発表）

九月二十八日・二十九日

於 五番教室

発表者

（二十八日）朝倉秀賢、鈴木卓司

熊谷龍尚、平野仁弘、

（二十九日）藤本浄彦、増田治人

三浦崇。

出席者 西谷啓治教授、坂本弘教授、大

屋憲一講師、古賀武麿助手、他専攻生

多数。

◇例会（卒業論文中間発表）

十月二十八日 於 五番教室

発表者 田中光子、中村宣弘、三角絃容

室殿 隆

出席者 西谷啓治教授、坂本弘教授、大

屋憲一講師、古賀武麿助手、他専攻生

多数。

◇公開講演会

十一月二十九日（水）三時より。

於 視聴覚教室

演題 宗教的行為としての大行

——教行信証の一考察——

講師 京都大学教授 武内 義範氏

出席者 学会関係諸先生および専攻学生

他に本学の諸先生方、学生等約八十名

教 育 学 会

◇教育学会大会

十二月二日（土）午後一時～六時

於 三〇二教室

一、公開講演会

講題 「特殊才能の教育」

講師 京都大学助教授 梅本堯夫氏

出席 柴田教授、太田助教授ほか、学内

外合わせて六十余名。

二、同窓懇親会

右講演会の後、卒業生を招いて、経験

や意見の交換を歓談裡に行なう。

出席 柴田教授、太田助教授、卒業生在

学生とも二十名。

◇例会（卒業論文中間発表）

十二月六日（水）午後一時～五時

於 三〇七教室
発表者 松下雅美、 柚山やすみ、 谷敦子
藤川邦暢。

出席者 柴田教授、 太田助教授、 学生十五名。

ドイツ文学会

◇卒論中間発表会

十二月二十二日 於 三〇四教室

発表者 佐竹俊充、 柳元子。

出席者 外村客員教授、 大河内、 芳原

講師、その他学生九名。

英 文 学 会

◇遠足、嵯峨方面

十月八日

井上、大野先生ほか、学生六名。

◇卒論中間発表

十月七、八日

出席者 荒木教授、 内藤、 大野助教授、

井上、山下講師、専攻生など約三十名。

◇大谷英文学会第二回例会

十二月四日

安田章太郎氏から「現代詩の一面」とい
う講演を聴き、後討論あり。

出席者、荒木教授、内藤、大野助教授、
井上、山下講師、専攻生など約三十五名。

大 谷 学 会

◇秋季公開講演会

十一月十六日

於 図書館講堂

詩のことばについて

荒木 文雄

沈黙における言葉

伊東 慧明

ルソオ教育論における

契約の理念

太田 祐周

仏身について

坂東 性純

児童相談の実際

深山 富男

(発表要旨は第四十七卷第三号に掲載)